

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月10日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010年度～2012年度

課題番号：22520755

研究課題名（和文） 多民族都市レスターの多宗教統合と南アジア系コミュニティ

研究課題名（英文） Multi-faith Integration and South Asian Communities in the Multi-Ethnic City of Leicester

研究代表者

佐藤 清隆 (SATO KIYOTAKA)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：90235333

研究成果の概要（和文）：

本研究では、第二次世界大戦後のイギリスにおける多民族都市レスターの南アジア系移民（主としてインド系）コミュニティの歴史を、「宗教」（ヒンドゥー教、シク教、イスラーム教など）を中心に据えて明らかにした。その際、一方では、各民族・宗教内の多様性や差別に注意を払い、他方では、彼らとイギリスの多文化主義政策の下でおこったレスターの多宗教統合との関連を重視して検討をおこなった。また、本研究の過程で、数多くのインタビューを実施し、「多宗教・多文化の歴史研究所」（明治大学）から『記憶と語り』シリーズの一部として英語による5冊のブックレットを刊行した。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this project has been to investigate the history of South Asian (mainly Indian) immigrants communities in the multi-ethnic city of Leicester from the end of the Second World War onwards, focussing primarily on the issue of religion (Hinduism, Islam, Sikhism, etc). My particular emphasis has been on the diversities and prejudices which exist within each religion, and their relationship to the process of multi-faith integration in Leicester, which has taken place in the context of more general multicultural policies applied across Britain as a whole. During the course of my studies, I have conducted interviews with a number of individuals and have produced five publications in English as part of the 'Memory and Narrative' series published by the Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity at Meiji University.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：多民族都市レスター、南アジア系移民コミュニティ、インド系移民、宗教、ヒン

ドゥー教、シク教、イスラーム教、ディアスポラ

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の申請時における背景や研究開始の動機は、以下の通りであった。

第一に、立憲君主制とイギリス国教会（国教）を統合原理とする多民族国家イギリスでは、近年、ヒンドゥー、シク、ムスリムなど「宗教的エスニシティ」とでも呼べる移民たちが、数多くの宗教施設を建設し、これまでになく社会の「表舞台」に登場するになり、それに伴って、国王（女王）の位置づけも、「イギリス国教会の守護者」から「あらゆる宗教の守護者」へと「変貌」を遂げつつあったことである。そして、イギリス国教会を中心に「宗教」が統合原理として、新たな意味合いを持つようになり、現代のイギリスが「マルチ・レイシャル・ブリテン」とともに「マルチ・フェイス・ブリテン」としての特徴を強く有するようになってきたことである。

また、本研究対象の多民族都市レスターは、2001年段階で、エスニック・マイノリティが全人口の3分の1以上を越え、ヒンドゥー、シク、ムスリムだけで、全人口の約30%を占めるに至り、さらにイギリス国教会を中心にさまざまな宗教を束ねる「レスター多宗教協議会」という組織が存在していた。しかも、この都市は、イギリス国内外から「民族・宗教間の関係がうまくいっている稀有な都市」・「多文化統合のかがり火」として称賛されていたのである。

第二に、申請者が本研究の着想に至ったのは、2001年から約1年間、レスターに滞在した折、移民たち自身がこの都市の多民族・多宗教統合に大きく貢献している現実を目の当たりし、こうしたテーマを研究することが、日本の将来を含め、「多民族・多宗教共生の

問題」を考えていく上で大いに役立つと考えたからである。その後、日本で地元紙を定期購読し、さらに年2回以上現地に足を運び、「宗教」を中心にレスターの歴史について研究・調査を続けてきた。しかし、これらの調査の過程で、先に述べたレスターの公的なイメージと現実との「ギャップ」に気づくようになり、またその一方で民族・宗教間の問題だけでなく、各民族・宗教内の多様性や差別（たとえば、カーストによる差別）の問題にも目を向ける必要性を痛感するようになったのである。

そこで、こうした問題を解明すべく、移民のなかで最も多く、レスターの多民族・多宗教統合にも大きく貢献しているといわれる南アジア系、とりわけインド系移民たちの「宗教」（ヒンドゥー、シク、イスラーム）に焦点を当て、本研究課題を申請した次第である。

2. 研究の目的

本研究課題の申請時における当初の研究目的は、以下の通りであった。イギリスの多民族都市レスターを事例研究・調査の対象として取り上げ、第二次世界大戦以後の南アジア系の主要な宗教（ヒンドゥー、シク、イスラーム）を中心に、彼らの歴史を、宗教間の問題だけでなく、各民族・宗教内部の問題にも注意を払いつつ、イギリスの多文化主義政策によるレスターの多宗教統合との関連で明らかにことであった。そして、多民族都市の研究に、「各民族・宗教内の多様性やその関係史」を加えることで、従来の多民族都市史研究とは異なる、より立体的・重層的なイギリス型多民族都市のモデルを構築する素材を提供することであった。

3. 研究の方法

本研究課題の研究方法は、以下の通りであった。その一つは、個人や家族の「ライフ・ストーリー」からみた「故郷」・「ディアスポラ」・イギリス社会への適応過程、レイシズム、ネットワークの問題を明らかにすること。もう一つは、各宗教コミュニティの「核」となっている「宗教施設」（シク寺院、ヒンドゥー寺院、モスク）やそこを中心に開催される「祭り」（ディワーリー、バイサキ、エイドなど）のポリティクスや歴史を明らかにし、それらを通して、多文化主義政策に潜む「陥穽」を明らかにすることであった。

具体的な研究方法としては、第一に南アジア系（とくにインド系）移民たちとのインタビューとその内容分析、第二に南アジア系移民関連の寺院や学校の訪問、祭りなどのイベント参加などの現地調査、第三にレスターおよびロンドンの文書館や図書館などでの関連史料の収集であった。

4. 研究成果

本研究では、多民族都市レスターの南アジア系移民コミュニティ（とくにインド系）の歴史を、ヒンドゥー、シク、イスラームなどの「宗教」を中心に考察を進めた。その研究成果は、ほぼ以下の通りである。

第一に、ヒンドゥーについては、その多様性を理解する観点から、参与観察やインタビューを利用しながら、インドから直接来たヒンドゥーではなく、1960年代後半から1970年代にかけて「アフリカの独立」や「アフリカ化」のなかで、政治的難民として渡英してきた東アフリカ（ケニア、ウガンダ、タンザニアなど）経由のグジャラーティー・ヒンドゥーに焦点を当て、彼らのライフ・ストーリーの紹介を試みた（**雑誌論文4**）。彼らの紹

介を試みたのは、彼らが、レスター社会の政治・経済・文化の面できわめて重要な役割を果たしていたからである。さらに、現在、レスターで開催されているヒンドゥーの代表的な祭り「ディワーリー」の歴史やインド（グジャラーティー、パンジャブ、南インドなど）、スリランカ、カリブ海諸島など出身のヒンドゥーについても調査を進めている。また、「記憶と語り」シリーズ（詳しくは後述）の一冊として、ケニア出身のヒンドゥー（代表的なヒンドゥー寺院のプレジデント）のブックレット（英語版）編集作業を進めて最中である。

第二に、シクについては、在英シクの多様性や彼ら内部のダイナミックな歴史のプロセス、そしてイギリスの多文化主義政策によるレスターの多宗教統合との関連を明らかにする観点から、参与観察やインタビューを利用しながら、以下の三つのテーマについて考察をおこなった。そのひとつは、多数派のオーソドックス・シクでない、聖者崇拜を重視する在英シク宗派ナムタリの歴史を明らかにし、併せてオーソドックス・シクや他のシク宗派との異同についてもふれた（**雑誌論文3**）。二つ目は、約140名（約200回）のシクとのインタビューや参与観察に基づき、レスターにある複数のシク寺院（グルドワラーと呼ばれる）の歴史を、カースト制との関連で明らかにした（**雑誌論文2**）。この英語論文は海外の著名な専門雑誌に巻頭論文として掲載され、すでにその分野の研究者たちから、在英シク研究に貢献をする日本人研究者によるすぐれた研究成果として高い評価を受けている。さらに評価が待たれるところである。

三つ目は、1984年にインドのアムリットサルで起きたインド政府軍による「ゴールデン・テンプル」襲撃事件が、在英シク・コミ

ユニティ（「インド系ディアスポラ」の一つ）をどのように変容させていくことになったのか、イギリスにおける多文化主義政策も射程に入れながら、レスターを事例に考察をおこなった（雑誌論文1）。この論文に関連して、現在、英語版の論文を準備中である。さらに、これら三つ以外に、「記憶と語り」シリーズとして、レスター在住のシク女性とシク画家のブックレットを二冊刊行した（図書3,4。詳しくは後述）。その序言は、それぞれ在英の著名なシク研究者が執筆した。現在、シク教の代表的な祭り「バイサキ」の歴史についても考察を進めているところである。

第三に、イスラームについても、その多様性を理解する観点から、レスターのおもな四つのイスラーム・コミュニティの歴史と「パーソナル・ナラティブ」の紹介を試みた。それを踏まえ、さらに2012年度には、「記憶と語り」シリーズとして、イデ・アミン政権下で、1972年にウガンダから追放されたインド系ムスリムのライフ・ストーリーのブックレットを刊行した（図書5）。本書の出版は、追放から40周年ということもあり、レスターをはじめ、イギリス在住の関係者たちから好意的に迎えられているだけでなく、レスターの地元新聞でも取り上げられた。

第四に、2010年10月、明治大学特定課題ユニットの一つとして「多宗教・多文化の歴史研究所」を立ち上げ、「記憶と語り」シリーズ（英語版）をすでに5冊刊行した（図書1～5）。それらは、①レスター・カリビアン・カーニヴァルの女性初代委員長、②ロンドンのイースト・ロンドン生まれのリベラルなユダヤ人女性、③1962年に8歳で渡英してきたシク女性、④レスター在住のシク画家とその妻、⑤1972年にウガンダから追放されたインド系事業家、のライフ・ストーリーである。2013年6月に6冊目が刊行予定である。

これらの基礎史料を編纂し英語版として後世に残すプロジェクトを始めたのは、研究成果の社会への還元という観点からして、この作業が論文執筆と並んで、現代史研究者のきわめて重要な責務だと考えたからである。これらのシリーズは、すでにイギリスの学会でも注目され、1～2冊目に関しては、国際的に著名な歴史学雑誌『オーラル・ヒストリー』（39, 2011）に「新刊紹介」が掲載され、1～4冊目に関しても、それぞれ、レスタシャーの著名な歴史学雑誌『レスタシャー・ヒストリアン』（47, 2011; 48, 2012）に紹介され、高い評価を受けている。また、これら全5冊については、レスター大学のコリン・ハイド氏が『駿台史學』（148号、2013年3月）に好意的な長い「書評」を寄稿してくれた。今後、さらに評価が待たれるところである。

第五に、同研究所では、2011年度から国内外の研究者を招いて「パーソナル・ナラティブ研究セミナー」を開催し、同時に冊子『多宗教・多文化の歴史研究所ディスカッション・ペーパー』第1号、第2号を刊行した。また、2012年5月20日の第62回日本西洋史学会（於・明治大学）では、イギリス近代史、ドイツ現代史、フランス近世史、日本近・現代史、インド近現代史を専門とする研究者たちの協力を得て、小シンポ「語りのかたち—パーソナル・ナラティブの歴史学」を主催した（学会発表1）。聴衆者から、予想以上の高い評価を得た。

以上が、2010～2012年度の主要な研究成果である。

最後に今後の展望である。今後、これらの南アジア系移民だけでなく、多民族都市レスタシャーのアフリカン・カリビアンたちやホワイト系移民（ユダヤ人、ラトビア人、ポーランド人、アイルランド人など）の歴史にも目を向け、より立体的なイギリス型多民族都市史

研究のモデルを構築する素材を提供していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

1. 佐藤清隆「1984年の「ゴールデン・テンブル」襲撃と在英コミュニティ多民族都市レスターの事例から」(『駿台史學』第148号、2013年3月、19-48頁) (論文) [査読あり]
2. Kiyotaka Sato, 'Divisions among Sikh Communities in Britain and Role of Caste: A Case Study of Four Gurdwaras in Multi-Ethnic Leicester', *Journal of Punjab Studies*, vol.19, no.1, Spring 2012, pp.1-26. (英語論文) [査読あり]
3. 佐藤清隆「多民族都市レスターの多宗的統合と移民コミュニティ 在英シク宗派『ナムタリ』の事例から」(『明治大学人文科学研究紀要』第70冊、2012年3月31日) 263-288頁 (論文) [査読あり]
4. 佐藤清隆「多民族都市レスターと在英ヒンドゥー・コミュニティ」(『明治大学人文科学研究紀要』第68冊、2011年3月31日)、75-114頁 (論文) [査読あり]

[学会発表] (計4件)

1. 佐藤清隆「移民たちの語りとアイデンティティ—戦後イギリスの多民族都市レスターの事例から—」(第62回日本西洋史学会小シンポ「語りのかたち— パーソナル・ナラティブの歴史学」於・明治大学、2012年5月20日) [学会報告]
2. 佐藤清隆「戦後イギリスにおけるインド系コミュニティとカースト制—多民族都市レスターのシク教徒の事例から—」(「イギリス史研究会第25回例会」2011年12月17日、於・青山学院大学)
3. 佐藤清隆「在英ラヴィダシア・コミュニティとカースト制」(「明大西洋史フォーラム」於・明治大学、2011年10月1日)
4. 佐藤清隆「多民族都市レスターの多宗的統合と移民コミュニティ—在英シク宗派ナムタリの事例から—」(「イギリス都市農村史研究会」、於・専修大学サテライトキャンパス、2011年5月13日)

[図書] (計5件)

1. Kiyotaka Sato (edited and written), *Life Story of Mr Jaffer Kapasi, OBE: Muslim Businessman in Leicester, and the Ugandan Expulsion in 1972*, Tokyo: Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity (RCHRC), October 2012 (Memory and Narrative Series 5, pp.179) [Foreword by Dr Pippa Virdee, De Montfort University].
2. Kiyotaka Sato (edited and written), *Mr Sarup Singh, MBE and Mrs Gurmit Kaur: Life Stories of A Sikh Artist and His Wife*, Tokyo: Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity (RCHRC), February 2012 (Memory and Narrative Series 4, pp.179) [Foreword by Dr Pippa Virdee, De Montfort University].
3. Kiyotaka Sato (edited and written), *Mrs Jasvir Kaur Chohan: Life Story of A Sikh Woman and Her Identity*, Tokyo: Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity (RCHRC), March 2011 (Memory and Narrative Series 3, pp.185) [Foreword by Professor Eleanor Nesbitt, University of Warwick].
4. Kiyotaka Sato, *Life Story of Mrs Claire Wintram: A Jewish Woman and Her Identity*, Tokyo: Tokyo: Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity (RCHRC), November 2010 (Memory and Narrative Series 2, pp.78) [Foreword by Professor Emeritus Richard Bonney, University of Leicester].
5. Kiyotaka Sato (edited and written), *Life Story of Mrs Elvy Morton: First Chair of the Leicester Caribbean Carnival*, Tokyo: Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity (RCHRC), October 2010. (Memory and Narrative Series 1, pp.96) [Foreword by Cynthia Brown, Former Project Manager of the East Midlands Oral History Archive (EMOHA)]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 清隆 (SATO KIYOTAKA)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：90235333

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：